

児童発達支援における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年1月30日 (13人中13人回答)

鳥取県看護協会ナーシングデイこすもす

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	4	1	・1人につき6.3㎡のスペースをとっているが、感染対策としてなるべく間隔をとるよう努めているので、狭いと感じている職員もいた。
	2	職員の配置数は適切である	10	3	0	・人員配置基準の利用者1.5人に対し職員1人の基準は適切である。ただ、送迎が重複した場合など職員が少なく感じることもある。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	2	1	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	5	0	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	6	1	・朝礼、終礼を実施し情報の共有、改善策を話し合い実践している。できない場合は情報共有できるよう日誌に記録し各自確認するようにしている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	1	0	・今後も1年に1回調査を行い業務改善につなげていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12	1	0	・毎回ホームページで公表している
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	5	2	・第三者評価は行っていないが今後必要ならば取り入れたい
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	0	0	・事業所が主導で行っている医療的ケア児者の研修に参加している。職場内会議時に全体で学習をしたり、医療機器メーカーに来所してもらい研修を受けたりしている。新入職員に対しては他事業所での実習も行っている。
適切な支援	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10	3	0	・契約時や初回利用時などに本人を交え、保護者からの聞き取りの中で必要と思われる支援を計画に盛り込むようにしている。今後はさらに保護者からの意向を盛り込みながら立案していく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	6	3	・標準化されたものは使用していない。現在、児童指導員を中心にアセスメントツールの検討、活用を考えている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	6	1	・情報収集をしたことをもとに支援計画を作成している
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	6	0	・計画を職員全員で共有し支援しているが、リアルタイムで変更修正などはできていない。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	11	2	0	・児童指導員、保育士を中心にして四季に合わせた行事やイベントを行っていく
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	5	0	・季節に合わせた創作活動など短時間でできるようなものを準備し一緒に行っている	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
支援の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	6	0	・一緒に絵本を見たり、音楽を聴いたり、個別ではリハビリを受けたりしている。無理はせずできるときにできることを行うように支援している。リハビリに関しては理学療法士を中心に計画立案していく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	7	0	朝礼で担当同士で簡単な打ち合わせを行うようにしているが、毎日必ず実施できているとは言えない。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	6	1	・終礼をし情報共有を図るようにしている。伝達事項は業務日誌に記入する、翌日の朝礼で伝えるなどしている。療育に関することは療育チームで振り返りを行っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	7	0	・カルテの記録不足がみられることがあり。日々の支援記録が充実するよう検討していく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	13	0	0	・毎月受持ちが月間評価をしているので、それをもとに児童発達支援管理責任者がモニタリングを実施している。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	2	0	・児童発達支援管理責任者が参画している
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	8	3	・他事業所に日常の様子などについて情報収集を行った
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	4	3	・療育園、他事業所、相談支援専門員などと情報を共有し連携を図っている
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	10	3	0	・事業所独自の医療的ケアに関わる指示書を主治医にもらい、それに沿って支援している。指示書は毎年取り直しをする
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	9	1	・まだそのような事例にあったことはないが今後あれば行っていく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	7	1	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	5	1	・他事業所と連携をとっている
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	0	11	・コロナ禍でできていなかったが状況が許すようになれば交流を図っていく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	4	6	・担当者は参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	3	0	・送迎時、デイでの様子をお話している。連絡帳も利用し伝達している
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	3	7	・デイ利用時に感じたことや、家での様子や関りなどを聞き、よりよい支援の方法を一緒に探し出すなどを行うようにしている。ペアレント・トレーニングについては研修修了者に伝達講習を受ける。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	2	0	・契約時に契約者が行っている
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	13	0	0	・できるだけ具体的に説明を行い同意を得るようにしている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	3	0	・個人で対応できないことは、職員間で話をするなどして対応するように努めている
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	4	6	・コロナ禍でできていなかったが、今後は何か企画したいと考えている
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11	2	0	・全員に共有し検討、体制の見直しを行っている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13	0	0	・定期的にブログの更新を行っている。年に2回の広報紙の発行も行っている。今後も事業所内での様子など発信していく予定。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	13	0	0	・写真の利用については保護者アンケートをとり利用してもよい方のみ利用させていただいている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	3	0	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	3	3	3周年イベントを開催し地域の方々にも参加していただいた。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11	1	1	・適宜見直し、修正を行いながら策定しているが、保護者には周知できていない。今後はホームページを活用し周知してい
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	1	0	・マニュアルの作成、見直しを行っている。 ・1年に2回看護協会全体の避難訓練を行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9	3	1	・お薬手帳や処方箋の確認、発作の種類など保護者から情報収集している。主治医からも指示書をもらい対応できるよう備えている
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	5	0	・当事業所では食事の提供はしていないが、指示書での確認はしている
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	0	0	・ヒヤリハット記載し振り返りを行い、その都度解決策を検討している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	1	0	・虐待防止委員会を設立、3か月に1回会を開催。職員全員での勉強会を行った。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	5	1	・対象の利用児がいない。身体拘束防止委員会を設立。3か月に1回会を開催。職員全員での勉強会を行った。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。